

# ストレス科学研究 投稿論文執筆要領

2010年10月29日 作成  
2012年11月5日 改正  
2014年1月14日 改正  
2015年4月1日 改正  
2016年3月24日 改正  
2019年6月9日 改正

## 1. 添付票

添付票は、公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター(以下、財団)のホームページよりダウンロードしたものを用いる。入手ができない場合は、財団まで連絡をすること。

### (1) 表題

- (a) 簡潔な表現を用い、英文表題を併記する。
- (b) 何らかの外部資金を獲得して行われた研究の場合、資金名を明記する。
- (c) 同じ表題で「1」、「2」などをつける論文のシリーズは、掲載を認めない。

### (2) 著者名・所属機関名

- (a) 著者名は和文のほかローマ字・英文を併記する。著者名のローマ字は名前・姓の順とし、姓は大文字を用いる。
- (b) 所属機関名は脚注に書く。職名・学位・研究員・大学院生の区別は書かない。所属機関名は英文を併記する。
- (c) 所属機関が同じ著者がいる場合、後出の著者の所属機関の欄に、初出の著者の名前を示し、「〇〇に同じ」と記入すること。

### (3) 要旨 (アブストラクト)

- (a) 英文要旨を作成し添付票の所定欄に記入すること。
- (b) 200語以内で作成すること。
- (c) 日本語要旨に関しては英文要旨の和訳とすること。特に字数は制限しないが、英文要旨に記載のない内容は述べないこと。

### (4) キーワード

5つ以内で、論文の内容、テーマに関わるキーワードを示すこと。それぞれ和文、英文の表記を記載すること。

## 2. 本文の書き方

- (1) 原則としてマイクロソフト Word 等の文書ソフトを用いて作成する。
- (2) 常用漢字、現代仮名づかいにより口語体(「である」体)を用いる。
- (3) 句読点は、「,」「。」を用いる。
- (4) 特に短い論文は別として、本文を章・節・頁に分け、見出し行間などは原則として次の例(ポイント・システム)にしたがう。

- 1 章に相当。2行分をとる。位置中央
- 1. 1 節に相当。1行分をとる。位置左端
- 1. 1. 1 頁に相当。行間はとらない。書き出しは1字あける。

- (5) 句読点・；：。、括弧 [ { ( 「 引用符などは1字分とする。
- (6) 本文中に図・表を引用するときは、Figure 1, Table 2 のように書く。
- (7) 図・表の挿入位置は、本文原稿の向かって右側の欄外に朱書で指定する。
- (8) 文献の引用は、本文中に通し番号で該当箇所の文字または式の右肩に 1), 2), 3)4), 5)-7) のように書く。
- (9) 次の活字指定は著者が行う。
  - (a) イタリック体（慣例：赤で1本の下線）
  - (b) 太字体（日本語のゴシック字体、アルファベットのボールド字体）  
（慣例：赤で波形の破線）
  - (c) 英字の下キャピタル字体（慣例：赤で2本の下線）
  - (d) ギリシャ文字は赤丸で囲む。

### 3. 図・表・写真

- (1) 図・表は、原則的にマイクロソフト Word, Excel 等で作成する。なお印刷時の縮小の度合いを考慮して、線の太さ、字の大きさに注意する。
- (2) 図・表の標題・説明文は、日本語とする。ただし英文を補記することができる。  
例) Table 1 対象者の性別・年齢群別人数と平均年齢
- (3) 図・表の大きさは原則として刷上り1頁以内とする。見開き（2頁分）は可能であるが折込は認めない。提出する原図の大きさは、原則としてA4版以下とし、刷上り面積は120mm（左右）×180mm（上下）を限度とする。
- (4) 写真（顕微鏡写真を含む）は、必ず縮尺を表示する。
- (5) 原図・表・写真にはそれぞれ番号（Figure 1, Table 1 のようにする）を欄外に朱書する。本文中に組み込んで印刷される写真は線画と同様の図として取扱い、他の図と一連の番号をつける。図・表・写真を本文に綴じこんだり、のり付けしたりしない。
- (6) 表は活字組みが可能であるが、その際の経費は著者負担とする。
- (7) 図・表および写真の標題と説明文は、図・写真の場合は下、表は上に挿入する。

### 4. 文献

- (1) 文献は本文中の引用番号順とし、論文末に一括する。
- (2) 英文の文献について
  - (a) 著者氏名は最初の3名までとし、それ以上の場合は“et al.”とする。
  - (b) 文献が雑誌の場合、著者、題名、誌名、巻号数、始頁－終頁、西暦発行年、とする。  
例) Kennedy, D., Physiology of photoreceptor neurons in the abdominal nerve cord of the crayfish. *Journal of General Physiology* 46, 551-572, 1963.
  - (c) 文献が単行本の場合、著者、書名、発行地：発行元、西暦発行年、とする。  
例) Mohanthy, N. C., *Signal Processing*. New York: Van Nostrand Reinhold Co., 1987.
  - (d) 文献が編集本の場合、著者、題名、編者名、書名、版、発行地：発行元、西暦発行年、とする。  
例) Coates, T. J., & Ewart, C. K., Primary prevention of hypertension in adolescents. In N. A. Krasnegoy, J. D. Arasth, & Cataldu, M. F.(Eds) *Child Health Behavior*. New York: John

Wiley, 1986.

(3) 和文の文献について

(a) 著者名は最初の3名までとし、それ以上の場合は“他”とする。

(b) 文献が雑誌の場合は、著者、題名、誌名、巻号数、始頁-終頁、西暦発行年、とする。

例) 正岡寛司・大久保孝治, 社会変動と人間発達. ヒューマンサイエンス 1, 11-26, 1988.

(c) 文献が単行本の場合は、著者、書名、発行元、西暦発行年、とする。

例) 湯浅慎一, 身体の現象学. 世界書院, 1986.

(d) 文献が編集本の場合は、著者、題名、編者名、書名、発行元、西暦発行年、とする。

例) 中林伸浩, 儀礼の刷新. 青木保・黒田悦子編, 儀礼. 東京大学出版会, 1988.

(e) 文献が訳本の場合は、著者、書名、発行地：発行元、西暦発行年。(訳者、書名、発行元、西暦発行年。)とする。

例) Bakal, D. A., *Psychology and Medicine*. New York: Springer Pub., 1979. (岡堂哲雄監訳, 病  
気と痛みの心理学. 新曜社, 1983.)

## 5. その他

本執筆要領に定めのない点は、公益社団法人日本心理学会発行の「執筆・投稿の手引き」の最新版に従う。

以 上